

北パブの1日

法律相談

事務所での相談、法テラスでの相談（北千住、上野等）、自治体での相談（足立区、江戸川区、葛飾区等）等、多くの法律相談を担当しています。



裁判所での期日や接見

裁判所での期日に出かけるのはもちろんのこと、刑事事件を多く受任するため、接見の機会も多いです。捜査段階では、連日の接見が原則となります。新人からベテランまで、各警察署や拘留所を飛び回る毎日です。



勉強会や研修への参加

北パブでは、主に1年目の弁護士が受任している事件について相談する民事、刑事それぞれの事件検討会、法科大学院生やOB・OGも参加する刑事実務検討会等、多くの勉強会の機会があります。もちろん、2年目以降の若手弁護士も、勉強会に参加し、自身の事件での悩み等も相談します。



若手弁護士への質問

北千住パブリック法律事務所所属弁護士 國府田 豊（73期）

Q. 入所する前の北パブのイメージは

北パブを知ったのは、ロースクール在学中の刑事クリニック（臨床法学教育の授業）のときです。担当教員が北パブの弁護士で、弁護団会議を北パブで行ったことで北パブを知りました。ひたすらに刑事事件を取り扱い、かつ無罪などの成果を多く出している事務所というように、ほぼ刑事事件一色のような事務所のイメージでした。

Q. 実際、入所してみて

入所後4日で初回接見に行ったり、年間30件近くの刑事事件を担当し続けてきたことや事務所全体の裁判員裁判の数からもうやはり刑事のイメージは強いですが、しかし、法律相談の機会が非常に多く、特に生活保護を受給されている方の債務整理事件を取り扱うことが多いので、刑事一色ではないということがよくわかりました。今では、刑事事件を中心に、民事・家事、債務整理など極めて多種多様な事件を取り扱うことができる事務所だと胸を張って言うことができます。

Q. 北パブで働いていて思うことややりがい

北パブは、法律相談の機会が非常に多く、かつ多く担当できるため担当事件数が多いのが特徴です。その分頼ってくれる人がいると思うと、さらに頑張ろうと思えます。

また、学生を対象にしたエクスターンシップ等にも積極的に取り組んでいるため、見本となれるようにしていかなければいけないと思っています。今では、毎年採用している新人弁護士と一緒に事件ができるように、自分も成長する努力を続けていくことがやりがいです。これからも、何事にも挑戦し続けていきたいと思っています。

ご挨拶

北パブの最大の特徴は、刑事弁護対応事務所と位置づけられたことにある。2006年秋に被疑者国選、2009年5月に裁判員裁判が始まる。弁護士会は、刑事司法大改革に伴う弁護活動の充実・強化に迫られた。そこで、刑事対応型公設事務所が構想された。

同時に、法律扶助等の相談を受ける「市民のための法律相談所」、弁護士過疎地域への若手弁護士の派遣、法科大学院の臨床教育に資する役割が求められた。

そして、北パブは、滞留事件、特別案件、死刑を含む重大事件を多数引き受け、「取調べの可視化」、「人質司法の打破」等の実現のため、刑事関連委員会に参加し、具体的弁護活動を通じて、不当・違法な身体拘束からの解放に努めた。

毎年意欲にあふれる新人弁護士が多数応募してきた。刑事弁護を担いたい、過疎地域で活動したい、町医者の弁護士になりたいなど多彩であった。新人を養成し、また、獨協大学法科大学院と協力して民事刑事双方のリーガルクリニックを受け入れた。

あっという間に駆け抜けた5年間であった。

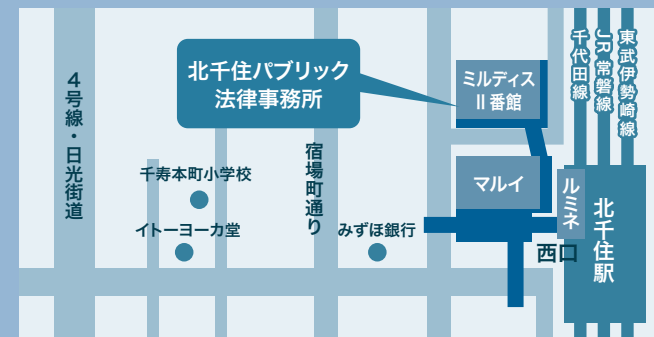
初代所長（2004年～2009年）前田 裕司

2024年4月をもって弊所は設立から20周年を迎えました。東京弁護士会の刑事対応型公設事務所として設立され、多くの弁護士（会員）の支援のもと、国選・私選刑事事件のみならず、幅広く民事（交通事故、損害賠償など）・家事（離婚、相続など）・債務整理も含めた各分野において、足立区や近隣の区を中心とした地域の皆様に対する法的サービスの提供を行って参りました。

この間、法科大学院生や司法修習生をはじめとした法曹養成を担うのみならず、新人弁護士を毎年採用して、OJTにより養成し、全国へと送り出してきました。20年間で弊所に在籍した弁護士の延べ人数は、100人を超えています。

今後も、事務所設立時の理念に忠実に、東京弁護士会の力強い支援のもと、依頼者の皆様、地域の皆様からの信頼を更に一層確かなものとすべく、取り組みを進めて参ります。今後とも何卒よろしく願いいたします。

北千住パブリック法律事務所 社員弁護士 鈴木 加奈子・酒田 芳人



TEL 03(5284)2101

〒120-0034 東京都足立区千住 3-98-604 千住ミルデイスII番館 6階

北千住パブリック法律事務所 4つの理念

01 刑事事件のプロフェッショナル

刑事対応型の公設事務所として

北パブは、全国で初めての刑事事件を担う刑事対応型の都市型公設事務所として、2004年4月に設立されました。設立以来、裁判員裁判をはじめとする刑事事件を積極的に引き受けてきました。また、弁護人が解任された事件等、対応が困難な事件にも積極的に取り組んでいます。「最後の弁護人であれ」という前田裕司初代所長の信念が、20年経った現在でも、受け継がれています。

刑事弁護のノウハウを普及させていくという使命

所員が日々鍛錬し習得した刑事弁護のノウハウは、所内で受け継ぐのはもちろんのこと、日本の刑事弁護全体の底上げのため、広く普及していくことが北パブの使命であると考えています。そのため、所員は、事務所での検討会の実施のほか、弁護士会、刑事弁護フォーラムなどの研修講師等も多く務めています。

04 未来を担う法曹教育

法科大学院と連携し、法科大学院生が法律実務の現場で法律問題に取り組む法教育カリキュラムであるリーガルクリニック、エクスターンシップを行ってきました。北パブでの「生きた法曹教育」を経験した多くの学生たちが、現在、北パブ及び他事務所において弁護士として、そして裁判官、検察官として活躍しています。

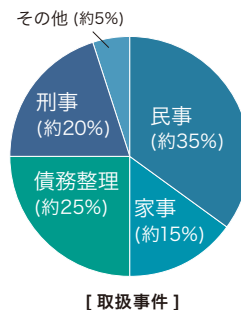
02 地域密着の法律事務所

北パブが事務所を構える東京都足立区は、東京23区の中でも弁護士が少なく、経済的・物理的な理由で司法へのアクセスがづらい環境にあります。

刑事対応型の都市型公設事務所として、多くの刑事事件を担当しつつ、刑事事件だけにとどまらず、地域に暮らす皆様の法的駆け込み寺として、離婚や成年後見、相続等の家事事件、借地・借家やマンション管理など不動産の問題、悪質商法被害や医療過誤、交通事故など各種損害賠償、多重債務や倒産の問題、労働問題、子どもの権利や少年事件など、日常生活から生じる様々な問題に幅広く取り組んでいます。

地域包括支援センターや福祉事務所などの関係機関からは、個別ケースの相談も受け付けており、住民の方々の法的ニーズを幅広く掘り取れるよう活動しています。

年に1回、他士業の方々と連携し「足立区よる無料相談会」を開催しているのも、地域の皆様の近くにありたいという想いからです。



03 司法過疎対策

北パブは、若手弁護士を養成し全国に送り出す養成事務所としての役割も担っています。設立以来、法テラス地方事務所、ひまわり基金法律事務所等に多数の若手弁護士を送り出してきました。その後、その土地に定着した弁護士も少なくありません。

弁護士の数が増えたとはいうものの、その多くが東京などの大都市に集中しており、弁護士過疎地域の問題が解消されたとはいえません。これらの地域では、弁護士が少ないことから、特定の分野に偏ることなく、様々な分野での活躍を求められます。大きな責任が伴いますが、幅広い事件を取り扱う北パブで養成を受けた弁護士は、まさに適任といえます。

【赴任先一覧】

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| ■ 法テラス旭川 | ■ 法テラス和歌山 | ■ むつひまわり | ■ 淡路島ひまわり |
| ■ 法テラス函館 | ■ 法テラス島根 | ■ 白神ひまわり | ■ 日向ひまわり |
| ■ 法テラスむつ | ■ 法テラス須崎 | ■ 米沢ひまわり | ■ 吉岐ひまわり |
| ■ 法テラス秋田 | ■ 法テラス宮崎 | ■ 久慈ひまわり | ■ 天草ひまわり |
| ■ 法テラス下妻 | ■ 法テラス延岡 | ■ 登米ひまわり | |
| ■ 法テラス佐渡 | ■ 法テラス鹿屋 | ■ 栗原ひまわり | |
| ■ 法テラス静岡 | ■ 法テラス沖縄 | ■ 下田ひまわり | |
| ■ 法テラス浜松 | | ■ 熊野ひまわり | |

北千住パブリック法律事務所所属弁護士 安藤 光里（74期）

ロースクールに入った年の夏に北パブのエクスターンに参加しました。

北パブのエクスターンのプログラムでは、捜査弁護・公判弁護・少年事件・法廷弁護技術の講義、模擬接見、冒頭陳述から最終弁論までの実演をするというプログラムがあります。そのほか、法廷傍聴をしたり、依頼者との打ち合わせや弁護士同士での検討会議に参加したりもできます。

刑事事件に興味がある学生が参加しているものの、検察志望の方もいれば、志望はまだ決まっていない方もいます。そういったエクスターン生の将来の志望に関わらず、本気で刑事弁護のイロハを教えるという、公設事務所らしいプログラムを提供しています。

なんとなく刑事弁護に興味があった私は、北パブのエクスターンを通じて、なんで「悪い人」の弁護をするのかという答えが明確になりました。エクスターンで学んだ刑事弁護の技術は、いつでも、どこでも、すべての人に対して提供されるべきだという信念も生まれました。そして率直に、なんだか楽しそうなことしてるこの人たちの仲間に私も入りたい！と思いました。

これから北パブを訪れるエクスターン生の方にも、刺激的な体験ができるような環境を提供できるようにしたいと思います。